

令和8年6月18日
北海道開発局

令和8年10月催行予定の「地域共創インフラツアー」!

～地域と共に創り上げるストーリー性のあるツアーを企画・催行する旅行事業者を募集します～

北海道開発局では、公共施設(インフラ)を観光活用することにより地域活性化に貢献するとともに、インフラへの理解を深めていただくことを目的に、インフラツーリズムに取り組んでいます。

このうち、「インフラが支えた地域発展の歴史」を柱に、地域の「歴史、産業、文化、食」といった様々な要素を取り入れ、地域と調整しながらストーリー創りを行い、関係機関と連携してツアーを実施していくことで、インフラを観光資源とし、地域活性化のためのツールの一つとして幅広く活用されることを目指した「地域共創インフラツアー」を実施します。

つきましては、テーマに沿ったツアーを地域と共に企画し、催行していただける旅行事業者を下記のとおり募集します。

記

1 ツアーテーマ

(函館編)

～4万年前の火山がくれた二つの恵み～

函館空港の舞台裏と湯の川温泉の癒しをめぐる旅

2 募集期間 令和8年6月18日(木)～令和8年7月2日(木)

3 申込方法等 応募要領、申込様式、申込先等については、北海道開発局HPをご参照ください。 URL: <https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001r55.html>

4 企画内容等 詳細は別紙をご参照ください。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話(代表) 011-709-2311
開発監理部 開発連携推進課 開発企画官 五百木 英明(内線 5433)
開発監理部 開発連携推進課 上席専門官 杉山 隆一(内線 5837)
開発監理部 開発連携推進課 松下 明日香(内線 5442)

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



令和 8 年度 地域共創インフラツアー 対象テーマと予約枠

	ツアーテーマ	時期
函館編	～4 万年前の火山がくれた二つの恵み～ 函館空港の舞台裏と湯の川温泉の癒しをめぐる旅	10 月

テーマの詳細、メニューリストは次ページ以降をご覧ください。

地域共創インフラツアー（函館編）

～ 4 万年前の火山がくれた二つの恵み～

函館空港の舞台裏と湯の川温泉の癒しをめぐる旅



予約枠 10月・最大2回（平日のみ）

担当 函館開発建設部

※本ツアーは、企画案を地域と共に創りあげたうえで、催行いただくものとなります。（以下「メニューリスト」の“★”印の施設を必ず行程へ組み込み願います。その他、以下に記載の連携できそうなメニューをはじめ、グルメや観光スポット等は、各ストーリーに基づき、自由に組み入れていただけます。）

※予約枠の確定後速やかに、開発建設部の担当者と企画のための調整をお願いします。

※その他応募の諸条件は、催行応募要領をご覧ください。

👉 本ツアーのストーリー

昭和36年に開港した函館空港は、国内外と道南を結ぶゲートウェイとしてだけでなく、海難救助・海上防災など地域の安全を支える重要な役割を担っており、また、海上環境保全を図る役割も果たしています。その空港のすぐ近くに広がるのが、日本一空港から近い温泉街である湯の川温泉であり、古くから「函館の奥座敷」と親しまれ、多くの観光客を魅了しています。

函館空港と湯の川温泉は、ともに約4万年前の銭亀沢火山の噴火によって形づくられた、同じ自然の恵みを分かち合う場所です。函館空港が位置する海岸段丘には当時の火山堆積物が多く残されており、また、銭亀沢火山は湯の川温泉の豊かな湯を生み出し続けている熱源ともいわれています。

本ツアーでは、普段入ることのできない函館空港の施設を見学し、湯の川温泉では遙か昔の火山活動がもたらした湯の恵みに触れることで、函館の魅力をより深く味わう特別な時間を体験することができます。

メニューリスト

◆インフラ施設一覧

① **函館空港（バックヤード） ★**

② **第一管区海上保安本部 函館航空基地 ★**

◆その他の施設

③ **湯の川温泉 ★**

◇連携できそうなメニュー一覧

● 滑走路端 埋蔵文化財調査

● 函館市北方民族資料館

● 市立函館博物館

● 函館市熱帯植物園

○見学可能な施設



出典：国土地理院地図

湯の川温泉



函館空港



第一海上保安本部
函館航空基地

